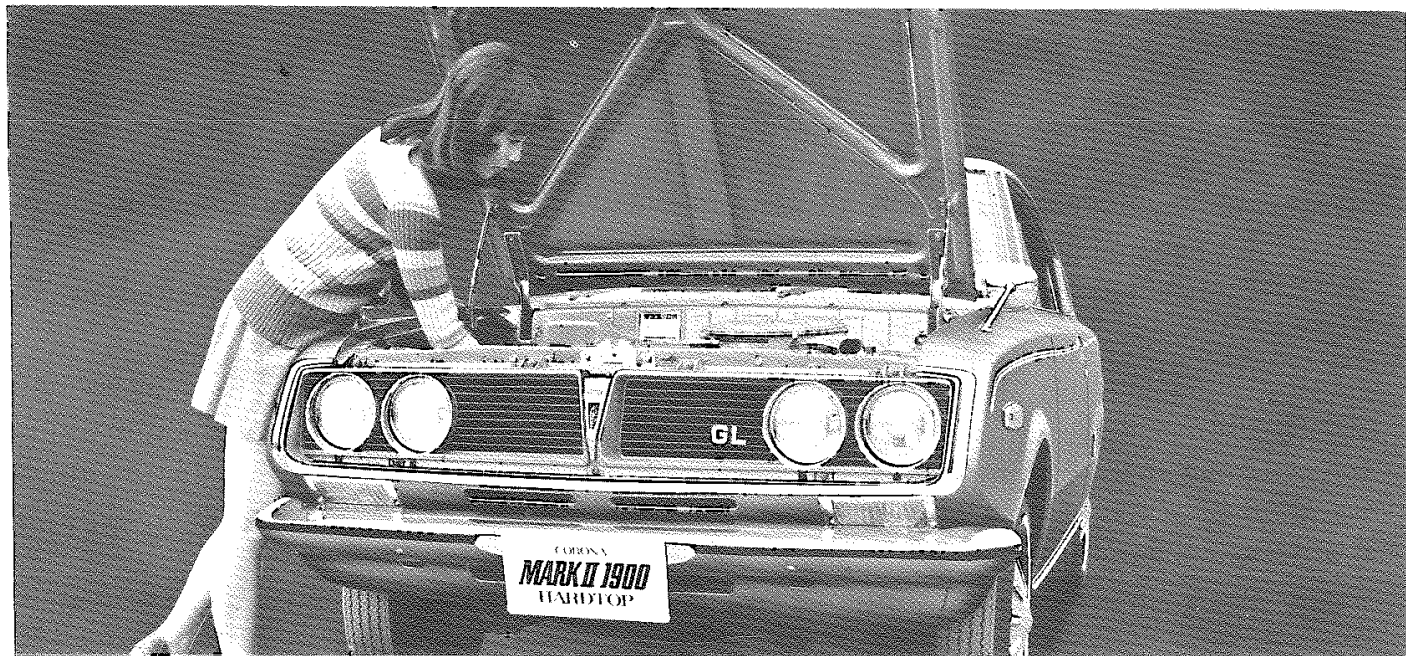


お出かけ前の点検

CORONA *MARK II* 1700 HARDTOP / 1900 HARDTOP

あなたのコロナ・MARK II をいつも快適にご使用していただくために、お出かけ前にこのことを点検してください。



■仕業点検

お出かけ前にこれだけはぜひ!!

どなたでも車を一回りすれば気軽にしかも容易に点検ができます。

点検はムダを省き手順よく行のがコツ、
①→②→③を順に行ってください。

1. まずエンジン、フードを開けて
オイルと水の点検……………①
2. 次に運転席に座って、エンジン始動
各計器類を点検し、ウォーム・アップさせながらハンドル、ブレーキなどを点検……………②
3. ヘッド・ランプをつけて車を出て、周囲を1回りする間に
タイヤ、ランプ類、オイル漏れなどを点検……………③～⑤
4. 再び運転席に乗り出発前に除行させながら速度計や、ハンドル、ブレーキの作動を点検……………⑥

項目		点検内容	
異状箇所		前回の悪かった所はないか。	
車のかたむき		前・後輪のスプリングに損傷はないか。	
タイヤ		空気圧は適当か。異常摩耗、(残り溝1.6mm)損傷はないか	
エンジン		エンジン・オイルは規定量はいつているか。 異音は出ていないか。排気の状態は正常か。	
ラジエーター		冷却水は規定量はいつているか。	
バッテリー		バッテリー液は規定量はいつているか。	
ブレーキ	ペダル	踏み残り代	いっぱい踏み込んだときの床とのすきまは55mm以上か
		遊び	0.5～5mmあるか。
	液量	規定量はいつているか。	
パーキング・ブレーキ		引き代は適当か。13ノッチ以内残り(9ノッチ)	
ステアリング・ホイール		ゆるみ、ガタはないか。遊びはハンドル円周上で50mm以内 異常に振れたり、とられたり、重くないか。	
各ランプ類		各々のランプは点灯するか。	
各計器類		作動はよいか。	
ホーン		鳴るかどうか。	
ワイパー		作動は良いか。	
ミラー		後方がよく確認できるか。	
ライセンス・プレート		汚れ、損傷はないか。	

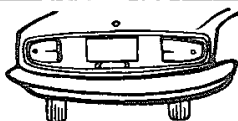
この中には、道路運送車輛法によりドライバーに義務づけられた仕業点検項目が含まれています。

④車の下をのぞいて



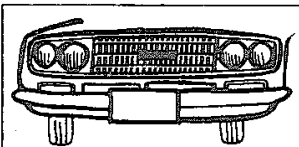
- エンジンオイル洩れ
- トランスミッションオイル洩れ
- ディファレンシャルオイル洩れ
- ブレーキ配管オイル洩れ
- ラジエータ水洩れ
- バネの折損

⑤車の後から

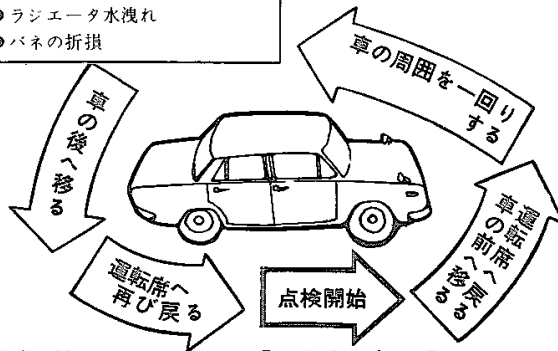


- テールランプ点灯
- ナンバープレートの汚れ
- 排気ガスの色
- タイヤ空気圧、傷、摩耗

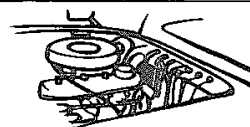
③車の前から



- ヘッドランプ点灯
- パーキングランプ点灯
- ナンバープレートの汚れ
- タイヤ空気圧、傷、摩耗

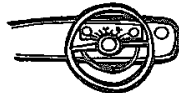


①まずエンジンフードを開けて



- エンジンオイル量・質
- ブレーキフルード量・質
- クラッチフルード量・質
- 冷却水量・質

⑥徐行しながら



- 水温計、速度計
- ハンドルの重さ
- ブレーキの効き

②運転席に座って



- 燃料計（ガソリン残量）
- 充電計、油圧計
- ターニングランプの点滅
- ハンドルの遊びかた
- ブレーキペダルの遊び残り代
- ワイパー、ホーン作動
- リヤビューミラー写影

（以上のほかにテールランプ、ブレーキランプバックランプの点灯の確認をしてください。）

■高速走行前の点検

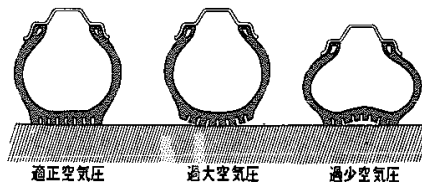
項目	点検内容
タイヤ	石、釘その他の異物はないか。
エンジン・オイル	汚れていないか。
ラジエーター	水漏れ、フィン間にごみなどつまりはないか。
ブレーキ	走行してブレーキの片ききはないか。 ブレーキ・チューブおよびホースと他の部分の接触、損傷、取り付けにゆるみはないか。
ハンドル	走行してハンドルが振れたり、取られたり、または重かったりしないか。
ファン・ベルト	ファン・ベルトの張りは適正であるか。 損傷はないか。
ガソリン	目的地まで走行するのに十分はいつているか。

まず、車にのる前に車のまわりを、一まわりして、ボデー、レンズ、タイヤなどに異状がないかを調べます。

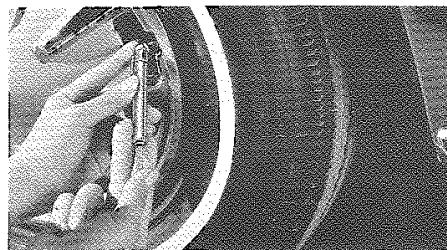
■下まわり

車をとめておいた地面に油とか水の漏れたあとがないかを調べます。
もし異常があると思われるときはサービス工場で点検を受けてください。

■タイヤの点検



タイヤの空気圧を見ます。外観より判断する目安は図のとおりです。



空気圧を計るときは、次のようにして行ないます。

タイヤの空気口のキャップをはずし、タイヤ・プレッシャー・ゲージを、空気が漏らないようにしっかりと空気口に押さえつけます。とび出してきた目盛棒は、勢いにより多目にとび出すことがありますので指で軽く押さえ、目盛を読みます。測定後、空気の漏れがないことを確かめキャップをはめます。

標準空気圧

前輪	1.5kg/cm ²
後輪	1.5kg/cm ²

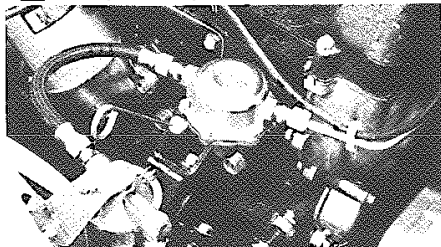
ただし、連続高速走行(100km/h以上)

無断複製禁止

する場合は前輪、後輪ともに0.3kg / cm²高めてください。

空気圧を調整するときは、スベア・タイヤも調べ、少し高めにしておきます。

■エンジン・オイルの点検・補給



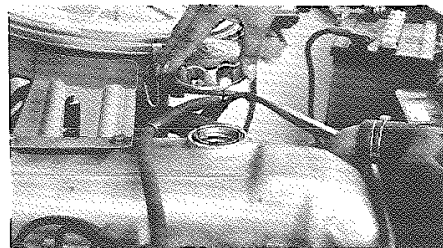
エンジン・オイルの点検……レベル・ゲージを抜いて、きれいな布などでふき、次にレベル・ゲージを元の穴へいっぱい差しこんで静かに抜き出してください。このとき、先端についたオイルの位置を讀んでください。

オイルがFとLとの間にあれば良く、L以下のときはFまで補給してください。オイルの汚れや変色の著しい場合は、交換してください。

エンジン・オイル……………4.1ℓ

《注意》

エンジン停止直後に、エンジン・オイルの点検をしますと、正確な量を読み取ることができませんので、3分以上たってから点検してください。

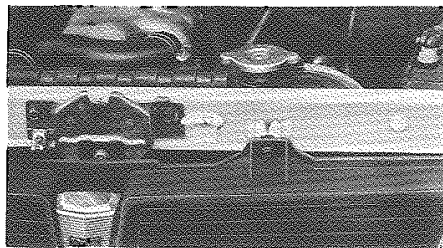


エンジン・オイルの補給……キャップは左にまわしてはけません。エンジン・オイルは、キャススル・モーター・オイル・スペシャル以上をお使いください。

《注意》

1. オイルを補給したあと、どれだけあるか必ずオイル・レベル・ゲージで確認してください
2. オイルはできる限り同じ銘柄のものを補給してください。

■冷却水の点検



点検と補給……ラジエーター・キャップは左に90°まわすとはずれます。

水が11元から約22mm以下のときはきれいな水を入れてください。

しめるときは、キャップ裏側の爪を切りかきに合わせてはめ、押さえながら右に止まるまでまわしてください。

なお、ラジエーターの水は、11元までいっぱい補給すると運転したあと水が少し減りますが、これは故障ではありません。ある程度減ると、それ以上減りません。

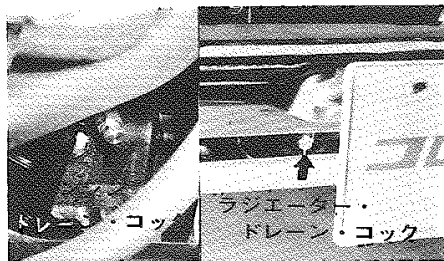
冷却水容量……………7.4ℓ

《注意》

エンジンの冷却水温度が高いときは、危

險ですが、エンジンが冷えるまで、キャップをあけないでください。

■不凍液



冬期には、ラジエーターに不凍液を入れてください。冷却水が凍ると、ラジエーターや、エンジンを破損することがあります。

不凍液を入れる量によって、冷却水の凍る温度が変わります。キャスル不凍液の場合は次表のとおりです。

凍結防止温度 ℃	-5°	-10°	-15°	-20°	-25°	-30°
混入量ℓ	0.9	1.7	2.3	2.7	3.1	3.4

不凍液の注入は次のように行ないます。

1. ラジエーターおよびエンジンのドレーン・コックを左にまわして外し、冷却

水を抜きます。

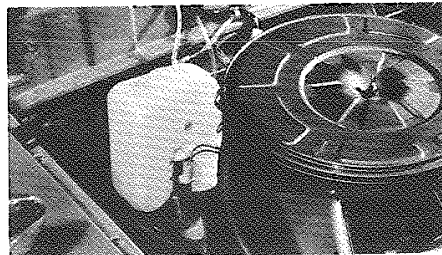
2. 水道の水を出したままにして、ラジエーターおよびエンジン内を洗滌します

3. ラジエーターおよびエンジンのドレーン・コックろをしめつけます。

4. ラジエーターに適量の不凍液を入れ、きれいな水を満たします。

暖かい季節になり凍結の心配がなくなったら、不凍液を抜き、ラジエーターおよびエンジンを洗滌してきれいな水を入れてください。

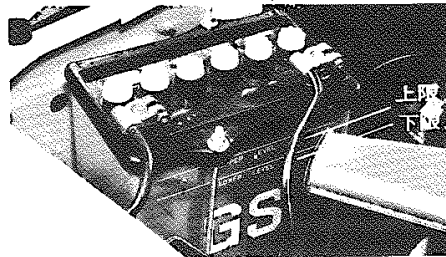
■ウインドウ・ウォッシャー液の点検



ウォッシャー液が空のままモーターを回しますと、モーターのこわれることがありますので常に規定のレベルまで補給しておいてください。

寒冷時には液が凍結し、タンク等を破損することがありますので、凍らず洗浄力でのすぐれたトヨタ・ウインドウ・ウォッシャー・フルードをご使用ください。

■バッテリー液の点検



バッテリーの中の電解液は、使っているうちに蒸発して減ります。

バッテリー・ケースは半透明になっていますので、液量は外から点検できます。液面がUPPER・LEVELとLOWER・LEVELの間であればよく、少ないときは、UPPER・LEVEL まで蒸留水を補給してください。

《注意》

1. 液は必ず蒸留水を使ってください
2. 電解液は希硫酸のため、衣服や塗装

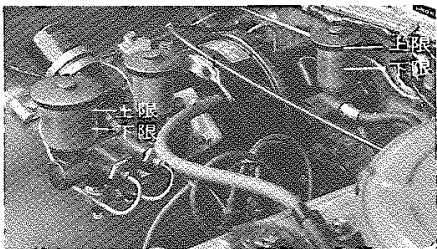
を犯しますのでご注意ください。

3. バッテリーのキャップには、通気穴があけてありますので、目づまりのないことをお確かめください。

4. ターミナル部がゆるんでいたなら、締め付けてください。

5. ターミナル部に白い粉が付いていたときは、温水で清掃し、グリース、またはワセリンを塗布してください。

■ブレーキとクラッチのフルード



フルードの量は外から点検できます。

フルードは、タンクに記入されているば良好です。もし少ない場合はタンクの上限まで補給してください。

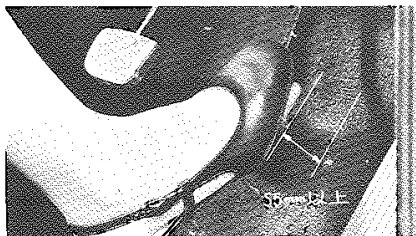
万一、フルードの減り方が著しいときは取扱店のサービス工場にご連絡ください。

1. ブレーキ・フルードは、トヨタ純正ブレーキ・フルード（グリコール2400）を補給してください。銘柄の違うフルードを使用しますと、フルードの性能が低下し危険です。

2. 補給のとき、ゴミがタンクの中に入らないよう注意してください。小さなゴミでもフルードに混じると、ブレーキやクラッチが効かなくなり危険です。

3. タンクの目面には通気孔があけてありますので、目づまりのないように注意してください。

■ブレーキ・ペダル



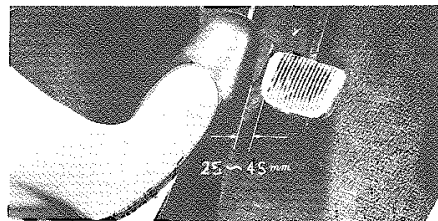
ブレーキ・ペダルをいっぱい踏みこんだとき、ペダルと床との間が55mm以上あれば異常ありません。またディスク、ブレ

ーキ取付車はこの状態でエンジンを始動すると、ペダルが少し奥へ入れば異常ありません。

この踏み残りしろが少ないとき、またはブレーキの効きがおかしいときは、サービス工場へ連絡してください。

しろが少ないとき、またはブレーキの効きがおかしいときは、サービス工場へ連絡してください。

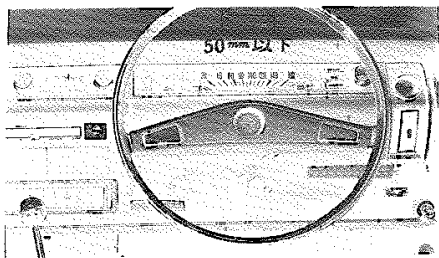
■クラッチ・ペダル



ペダルを踏んで、はじめの25～45mm位はほとんど抵抗なく、その後、抵抗を感じながらいっぱい踏みこめるときは、正常です。

始めからペダルが重いとき、または、抵抗なく踏めるときは、サービス工場へ連絡してください。

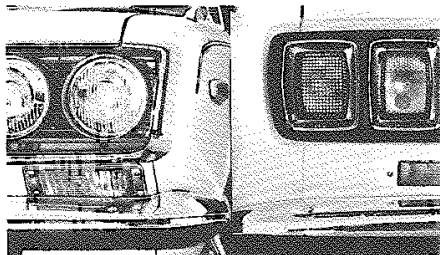
■ステアリング・ホイール



ホイールを指先で軽く左右に抵抗を感じるまでまわしてみても、握りのところ〈外周〉で50mm以下が正規の遊びです。

遊びが多いとき、何か異状が感じられたときは、早目にサービス工場へ連絡して下さい。

■ランプ類、計器類の点検



ストップ・ランプ……ブレーキ・ペダルを踏んでランプの点灯することを確認します。

ターン・シグナル・ランプ……エンジンキーをONにして左右同じ早さで点滅するかを確認します。

ヘッドランプ……ライト・コントロール・スイッチをヘッドランプONにし、デイマー・スイッチを作用させて点灯を確認します。

スモール・ランプ……ライト・コントロール・スイッチを一段引きONにしてスモール・ランプ、テール・ランプ、ライセンス・プレート・ランプが点灯することを確認します。

バック・アップ・ランプ……エンジン・スイッチをONにしコントロール・レバーをRの位置にして〈トヨタ車はハーキング・ブレーキ・レバーを引きエンジンをかけて⑧レンジにする〉、バック・アップランプが点灯することを確認します。

ホーン……ホーンの音が正常なことを確認します。

ワイパー……ワイパーが正常に動くことを確認します。〈フロント・ガラスの汚れ・ホコリを取除いて行ないます〉

リヤ・ビュー・ミラー……運転する姿勢で後方がはっきり見えることを確認します